

「未来に向かって発展する町で『絆』を強めて」



七飯支会幹事長
(大沼小学校)

小野寺 徹

七飯町は、風光明媚な大沼国定公園を擁し、また自然豊かな横津岳の麓に広がる肥沃な土地と温暖な気候に恵まれ発展してきた歴史ある町です。古くは本道における西洋式農業発祥の地として、また近年は果樹並びに花卉・野菜の栽培が盛んな町として知られています。さらにこれからは、北海道新幹線の総合車両基地が稼働し、新たな発展が期待されています。

七飯支会は小学校八校（東大沼、軍川、大沼、鈴蘭谷、峠下、藤城、七重、大中山）と中学校四校（大沼、鈴蘭谷、七飯、大中山）があり、現職会員は、九十四名、OB会員は二百四名の大所帯となっています。十二の学校がしっかりと連携し、未来を創る子供たちの健全育成のために日々努力しています。またOB会員はそれぞれの立場で、地域のために活躍されています。

さて、七飯支会の組織体制についてお知らせします。従来支会の事務局は、大沼・七飯・大中山の三地区での輪番制とし、各地区内で校長・教頭が共に夕陽会員である学校から支会長と幹事長を選出してきました。しかし近年では管理職の会員数が減少し、二名そろって会員である学校は少なくなりました。また、前年度限りで鶴野小学校が閉校となったこともあり、今年度の総会で規約を改正し、新たな地区割りと役員を選出方法を決定しました。

「夕陽の絆」を一層強めるために、会員の増加が望まれます。そのためには、中学校だけでなく、高等学校や養護学校に在職している同窓生、さらには町内在住の教職員以外の同窓生へも入会の働きかけができればと考えているところです。

職員室

「地元渡島の皆様とともに」



五稜支会幹事長
(渡島教育局)

吉田 昌 幸

五稜郭支会（渡島教育局）は、今年度、沢田教育支援課長のもと、永長指導主事、吉田社会教育指導班主査三名の会員で構成しています。

北海道の子ども達は今現在、学力・体力・生活習慣など多くの課題があり、それらの改善に向けて、学校の教育、社会教育一丸となり、学校・家庭・地域の連携をより深め、課題解決を図っているところです。

着を原動力に、沢田課長は義務教育、高等学校教育を中心とした学校教育から生涯学習・社会教育まで広く目配り、気配りし、教育局の要として管内教育の充実、振興にフル回転しております。

永長指導主事は、今年度、指導主事として採用となり一年目から専門性を十分生かして特別支援教育の充実を中心に日々奮闘しており、私自身は、六年ぶりに渡島管内にもどり、家庭教育支援事業等とおし、生涯学習・社会教育の振興に微力ながら従事しています。

渡島管内は、間もなく新幹線の開通が予定されており、新しい時代の幕開けが迫っております。それによって、経済活動はもとより、生活様式にも少なからず変化が見られることと思っております。

これらの課題について、私達同窓の方々各校等でご活躍しており、確実に成果が見られていくことに大変心強く感じているとともに、日々感謝しながら業務をすすめております。私達三名は、地元渡島への愛

私達は、それぞれ立場は違いますが、時代の変化にあっても適切に対応できる子ども達の育成や地域の方々健康で文化的に暮らすことのできるよう同窓の先輩後輩らと協力して渡島の学校教育、社会教育の充実に取組んで参りたいと思っております。今後ともよろしく願います。

支会だより

「知内ブランドを心に刻み」



知内支会長
(知内中学校)
橋山 聡

知内町は、特産品のニラ（北の華）と牡蠣が有名ですが、それ以外にも、マコガレイやホタテ、ヒラメなども有名です。山の幸では、トマトやほうれん草の栽培も盛んです。さらに、林業も盛んで、スギは、児童・生徒用の机の天板として利用され、無垢材を体育館のフローリングとして利用しています。このように海や山の幸が豊富なのも、大千軒岳を中心とする豊かな森林の栄養分を知内川をはじめとするいくつもの河川が運んでくるからです。でも、知内が誇るナンバーワンは、歌手の北島三郎さんで決まりでしょう。知内にある二二四年に建立された道内最古の神社「雷公神社」の祭典に出席したとき、サブちゃんの弟さんにお会いしました。サブちゃんと全く同じ容姿に驚きました。また、夏のサマーカーニバルには、北島軍団が来町し、祭りを盛り上げてくれます。



知内は、アイヌ語で「チリ・オチ」で「鳥の居るところ」を意味しており、松前藩の主要財源である鷹の産地でした。そんな歴史ある知内町の夕陽会知内支会もただ者ではありません。支会総会は、昭和一九年卒の能代大先輩を始め、幼稚園、小学校、中学校、高校、役場の会員が集い、思い出話に花を咲かせます。今年には本部役員会と日程が重なり、残念ながら橋田会長とお目にかかれませんでした。高橋支部長が激励に駆けつけてくださり、一段と盛り上がりを見せました。現在会員は幼稚園一名、小学校二名、中学校二名、高校三名、役場一名、終身会員五名の合計三十五名です。この三五名のメンバーで、絆を深め支会を盛り上げることを大きな目標とし、会員一人一人が主役である知内支会を目指し、みんなで進んでまいります。

支会だより

「玄関口の町」



森支会長
(駒ヶ岳小学校)
津田 英 昭

森町は平成十七年に砂原町と合併し、来年で十年となります。一昨年は、道央自動車道の大沼公園ICが休校中の赤井川小学校付近に開通しました。国道5号線との交差点は道路幅が6車線となり、北海道新幹線新函館北斗駅から近く、北海道の観光・流通の要の町としてますます発展が期待されています。なお、森町は古くからも交通の要所でありました。鷲ノ木ストーンサークルは縄文時代の交易が盛んであったこととしるしであり、明治維新のころ、新撰組・土方歳三・旧幕府軍が志高く鷲ノ木へ上陸し、さらには、室蘭へ直行する噴火湾の定期航路の町として役割をはたしてきました。

学校教育においては、砂原小学校（旧）が明治六年の開校であり、最も歴史があったわけですが、最近の人口減少・合併を前後して学校数も減り、小学校は七校（石谷、姫川、三岱、霞台、沼尻、掛淵、赤井川）が廃校・休校となりました。現在は小学校七校（森、駒ヶ岳、尾白内、鷲ノ木、石倉、濁川、さわら）、中学校二校（森、砂原）であります。教職員定数は約百三十、私たち夕陽会森支会の現職会員は六十七名ですから、約五十二%が同窓ということになります。さらに、森町内に在住の先輩会員は三十六名で、合計では百名を超える大所帯です。先の七月には夕陽会本部副会長天野哲征様、本部幹事長奥崎敏之様、夕陽会渡島支部長高橋伸夫様をご来賓としてお迎えし今年度の総会・懇親会を盛大に開催することができました。中には、四十年ぶりに再会できた恩師に深く頭を下げる現職の姿もあり、同窓会の良さをあらためて皆も感じたようです。

本校の校長室には、祝母校創立六十周年記念の鏡が飾られてあり、毎朝開学の精神も思い出させてくれます。



「半年を終え」



松前支会
(大島小学校)
皆川 隆一郎

大学を卒業後、オホーツク管内の小学校で三年間限付き教諭として勤務し、今年の四月より松前町立大島小学校で縁があり勤務させていただいております。思い返すとこの半年間、初めての体験ばかりで、日々勉強です。特に、初めてのTTとして過ごす現在は、学習の面で「子どもたちにどのような手立てをしたら力がつくのだろう。」と考えることが多く、うまくいかず悪戦苦闘しています。

そんな中、職場の先生方、地域・保護者の方々の支えには非常に感謝しているところです。まだまだ未熟者であります

が、誠心誠意、渡島の子どもの為、努力してまいります。お世話になる場面が多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願います。

「スタート」



福島支会
(福島中学校)
細川 将吾

平成二十六年度に情報科学専攻基礎情報分野を卒業し、福島町立福島中学校に赴任しました。この福島中学校に勤めることができたのも、夕陽会の諸先輩方のあたたかご支援のおかげであると思っております。四年間お世話になった渡島管内で教員人生をスタートできることに喜びを感じております。

四月から現在までの期間は毎日新しいことばかりで、先輩の先生方や生徒たちから日々、多くのことを学び続けています。生徒たちの笑顔や達成感に満ちあふれた顔を見られる事が今一番の楽しみであり、やりがいであると感じております。これからも学ぶ姿勢を忘れず、自己研鑽してい

きます。

まだまだ未熟な点が多々ありますが、一教員として子供たちの力になれるように励んでまいりますので、よろしく願っています。

「中学校教員としての第二步」



福島支会
(福島中学校)
高橋 慎吾

本年四月より福島町立福島中学校に赴任いたしました。昨年度までは高校で教鞭をとっておりましたが、かねてより目標としていた中学校での勤務に日々充実した教員生活を送らせていただいております。子どもたちはとても素直で吸収力のある生徒ばかりです。そのような子どもたちのあらゆる局面で成長のチャンスと捉え指導していくために、どのようなアプローチをするか思考する毎日ですが、この地に出会えたことへの恩返しとして、一つでも多くのプラスを生徒たちへ還元できるよう努力しています。

また、小さな町だからこそ子どもたちだけでなく地域の方々と交流を深め、少しでも町を活性化させるお手伝いができればと思

いつ活動しています。

まだまだ未熟ではありますが渡島の子どものために精一杯努力していきたいと思えます。よろしく願います。

「御縁」



知内支会
(知内中学校)
小野寺 清孝

本年四月に、知内町立知内中学校に赴任いたしました。学生時代には、セバタクローという競技をしており、よく知内町にて合宿をしていました。合宿場の方の優しさや、施設の方の協力もあり、充実した日々を過ごすことができた思い出があります。その慣れ親しんだ知内町の教育に携わることができ、大変嬉しく思います。

こちらに赴任して七か月が経ちましたが、先輩の先生方に様々な場面で助けていただきながら、日々勉強しているところです。日常の忙しさもありますが、何と云っても、生徒と関わる時間がとても楽しく、改めて環境に恵まれているなど感じております。

生徒の「できた」という達成感

を共に感じられる教師を目指し、日々精進して参りますので、今後
もご指導をお願いいたします。

「半年が過ぎて」



知内支会
（知内小学校）
小 竹 和 子

今年の四月から、知内町立知内小学校に赴任しました。二校目の小学校勤務となります。以前は、複式の学級担任を務めていました。初めて三十人の学級担任となることに、不安な気持ちもありましたが、それ以上にたくさん子ども達とかかわれる期待で胸がいっぱいでした。周りの先生方、保護者の方々に教えられ、支えられながら、今日までの半年を過ごしてきました。その中で、私心がけていることは、「子どもの限界を決めない」と言うことです。「これはきつとできないだろう。」
と思い、やらせないのではなくて、どうしたらできるようなになるか考え、取り組ませると、子どもの可能性を伸ばすことにつながると思っています。

「各地域での教育を経験して」



北斗支会
（大野中学校）
齊 藤 淳 一

昭和六十年に母校を卒業後、福島町立吉岡中学校を皮切りに函館市内の小中学校四校で勤務した後、檜山管内江差町での三年間の勤務を経て、本年四月、函館市立大船小学校から赴任いたしました。特にこの六年間は、渡島半島を東西に横断する形で各地域での教育に触れ、大変貴重な経験をさせて頂きました。檜山では支部事務局業務に従事したことも良い思い出となっています。各地域には、それぞれに根ざした教育があり、学校課題もまた様々です。しかし、どの地域・学校でも変わらないのは、道南の未来を担う子どもたちが、煌々と目を輝かせながら明日の登校を心待ちにしている姿でした。

「初心を忘れずに」



鹿部支会
（鹿部中学校）
渋 川 奈 美

後志管内小樽市で初任の四年間を勤務させていただき、四月から鹿部町立鹿部中学校に赴任して参りました。渡島で生まれ育ち、中学生の頃から教師になることを夢見て、努力を重ねてきました。

私を教職に導いてくれ、育てて下さった恩師の方々や、「先生になりたい」と言った私の背中を押してくれた仲間達が、渡島にはたくさんいます。教育大学の楽しさを教えた」と話して頂きました。教員になって五年目、未だに新しく学ぶことばかりで、つい初心を忘れてしまいがちです。私を育ててくれた地元のために、試行錯誤しながらではありますが、全力で頑張っています。

四月当初は正直戸惑う事も多々ありましたが、住む土地は違っても生徒達の未来あふれる笑顔は変わらず、純真で素直な生徒達からたくさん元気をも

「感謝」



鹿部支会
（鹿部中学校）
藤 本 大 介

教育大学函館校の美術科を卒業した後、非常勤講師や期限付き採用での仕事をさせていた
だきながら、主に渡島管内で仕事をさせていただきました。正式採用として二校目、まだまだ勉強不足だということを日々痛感しながら、鹿部町で勤務をさせてただいている現在です。

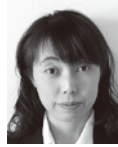
鹿部での生活で、まず感じることは本当に鹿部が「温かい街」であるということです。

明るく素直な生徒たちや、親切な地域の方々を支えられて、鹿部中学校が成り立っていることを日々実感しています。皆さんの足を引っぱりご迷惑をおかけする自分ですが、今後この鹿部の地で皆様方と一緒に仕事を

させていただけることに、本当に感謝しております。

現状維持で無く、生徒たちの力を少しでも伸ばしていきたいという思いを胸に、微力ながら努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

「感謝の日々」



森支会
宮本 かおり
(鷺ノ木小学校)

函館市の小学校に四年間勤務し、今年四月より森町立鷺ノ木小学校へ赴任いたしました。函館校を卒業後、市内の小学校で期限付き教員を長く経験し、三十代になってから採用試験に挑戦しました。そんなわたしの遠回りの教員としてのスタートを、温かく見守り、教え、導いてくださった夕陽の先輩方には、心より感謝しております。

現在は三年生の担任をしており、毎日元氣いっぱい、笑顔いっぱいの子どもたちと共に学び、充実した毎日を過ごしております。新しい環境で不慣れなことも多い中、私を支えてくだ

さる先生方や保護者、地域の皆様に感謝の日々です。

こちらに来て函館市でご縁のあった方々に再会する機会が多くなりました。これからも様々なご縁を大切にしながら、職務に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

「感謝」



八雲支会
大谷 信一
(落部小学校)

本年四月に、八雲町立落部小学校に赴任いたしました。

平成元年に檜山管内からスタートし、その後二十二年間にわたり、函館市にお世話になりました。函館市では、吹奏楽や合唱や弦楽器の指導など、自分の専門の音楽に携わることができて、皆様には深く感謝しています。

後半の六年間は音楽の指導から離れていましたが、この度落部小学校に来て、全校合唱の指導を担当することになり、六年ぶりの音楽ということ、また新たな気持ちで臨んでいるところです。子供たちのすばらしい歌声と

笑顔につつまれながら、これからも頑張っていこうと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

「真摯に向き合う」



八雲支会
本間 達也
(泊川小学校)

本年四月より、八雲町立泊川小学校に赴任して参りました。長いようで短い、短いようで長くも感じられるこの半年間で、故郷を離れて働くのは初めての経験で、不安ばかりの転勤だったというのが年度初めの正直な感想でした。

実際に赴任してみますと、慣習の違いや学校規模などに今までの多少の違いこそあれ、明るく元氣な子供たちが学校生活を楽しくに登校してくることに何ら変わりはありません。教師として真摯に子供たちに向き合うことがもつとも肝要であり、それはどこへ行っても変わりないと思いを新たにすると、不安もさっぱり消え失せました。

北斗星高く輝き夕陽が眩しく日本海に沈む地で、教職に精励

して参ります。御指導よろしくお願ひ致します。

「感謝」



五稜支会
永長 明之
(渡島教育局)

渡島管内の特別支援学校で勤務し、この四月から、渡島教育局へ赴任して参りました。

特別支援学校では、特別支援教育コーディネーターとして、夕陽会渡島支部の管理職や教諭の方々に助けていただきました。

本年四月からは、教育行政に入り、少しでも恩返しできれば、との思いですが、半年間、思いとは裏腹に、夕陽会の諸先輩に御世話になることばかりです。

今から十三年前、私が教諭として赴任した頃、夕陽の先輩から、「百人の先輩に見守られていると思ひ、自信と責任、感謝の気持ちを忘れずに」と、御指導賜りました。諸先輩に見守られ、今日の自分があることに感謝し、日々の業務に励んで参ります。まだまだ未熟ではありますが、今後とも御指導のほど、よろしくお願ひいたします。

終身会員

の声

孫から元気を



昭和三十五年 二類
石垣 英 俊

退職してすぐに先輩たちに頼まれ、退職校長会と互助会の広報や研修を十三年間手伝うことができた。この活動が、生活のリズムをつくり、いろんな人のコミュニケーションを楽しみ、文字に接することができ、脳を働かせることができた。

また、趣味としてのパークゴルフや卓球を通して汗を掻いたり、会話をしたりと、健康を維持することに努めることができた。

十月の初め、退職校長会の研修会で、「高齢者の心身の健康」という講演を聴いてきた。日常生活に支障をきたす人が二千二年には、百四十九万人だったのが、現在では四百六十二万人にもなっているという。

特に七十五歳になると三十三・六%、八十五歳になると二十五%もいるということを感じ、心身の衰え防止は、運動する

習慣や充実した食生活習慣とのことであった。

最近、保育園に行っている孫の迎えや小学生の孫の授業参観で友達に接し「ほっとしている」「ことや「楽しみにしていること」に気付いた。そこで、今の状態を維持するために卓球やパークの目標を立てて、張り切ることにした。ただ体調を崩さないように「ほどほど」にしなから目標を達成して健康を維持し、できるだけ長く孫に関わり、楽しみたいと願っている。

趣味を生かして



昭和三十五年 二類
経 田 英 輔

早いもので退職して十六年もたつてしまった。退職したら好きな事が出来ると思いながら：二つの趣味に挑戦しています。

一、書道

好きだった書道は退職と同時に互助会の方へ希望した。

講師先生は高校時代の恩師、M先生であった。

「先生、ぼくを知っていますか。」「おう、知っているとも、かわいがつてやるぞ。がんばろうな。」と言われ、早く筆を持ちたくなった。先生は、毎回、机間巡視され、「ここは、ゆつくり筆を運べ、元気良くはねるんだ。良くできた。」言葉づかい、動作などから、高校時代に戻つたようにがんばつたものでした。お陰さまで、何とか条幅半紙に清書することを覚えしました。

二、囲碁（ザル碁）

友達に先週敗けた。今日はがんばるぞ。また、彼の計略に巻き込まれる。残念。

でも、終わった後、丁寧に指導してくれる。有難いものです。年令が増すと以外と声を出して話をしなくなる様で。

でも、囲碁は盤上で、白黒の石を媒介として会話を楽しんでるよう面白いですね。

ある本に『チャレンジ』という言葉があった。脳の活性化は、何かにチャレンジしている時には、意欲や集中力が高まり、好循環になるそうです。

オルセイ美術展



昭和三十五年 二類
佐藤 泰治

機会があつて、都内六本木の東京新国立美術館を訪れることができた。ガラス素材を豊富に使用したモダンな建築で、ホールも広々とした空間と自然の採光が十分に取り入れられた設計で圧迫感がない。

館内では、オルセイ美術展が開催されていて幸運にも鑑賞することができました。場内には、満員で幾重にもできている人垣の間からはテキストで見た印象派時代の名作や傑作の数々が展示されている。モネー、ルノワール、ミレーなどの作品を人物や風景、静物をモチーフにまとめて構成されている。それぞれの作品に込められたエネルギーが観る者に伝わってくるような感じがする。その時の興奮が脳裏に残り、残像となつて浮かんでくるから不思議である。このような現象も、本物が持つている良さなのかもしれないと思つている。

美術に関しては、興味・関心が薄いほうである。美術史の知識を少しでも深めていけば、和洋の作品の持つている価値や作者への理解も深まるのかもしれない。会場では、各作品の説明している音声ガイドサービスを利用して鑑賞を深める有効な方法であるが、好きになれず利用したことはない。

美術には素人だが、各美術館が誇る作品展があればおつくりがらずに出かけた気持ちはあるが、好機を逃し続けているのが今の姿である。

自分の身体と向き合いながら



昭和三十五年 二類
鈴木 豊

またたく間に十六年。仕事にも就かずのままの年月でした。退屈もせず、忙しい日々を送っている。その理由は病気をしなかつた事。元気でいれば、やる事は沢山見つかる。運動音痴の体育教師がゴルフとスキーに人の三倍。

今回、夕陽渡島への投稿依頼有り。平凡な日々の私には、特別な事は書けず「自由な内容」との連絡に甘えて、思いつくままに自分の日々を書いた。私は現在、通院なし、薬なしの毎日。七十五才としては自慢できるかなあと。

「どうして」それは、親から貰った身体と、漁師の子だったから、食は常に原材料のまま。七十五才を越えると、当然のごとく、耳は遠くなるし歯も弱くなる。運動機能は全て弱くなつてくる。こんな事を素直に受け止めよう。

耳の遠いのは近くへ。歯には柔らかい食を。視力はメガネが有る。長く歩けなかつたら短くすれば良い。しかし、痛くなつたり苦しかつたら当然病院へ。早めに病院の人も居る。それは早期発見、早期治療で賛成している。世の中、色々な制度や仕組みで「これでもか」「これでもか」と、高齢者を追い込んでくる。「なにくそ」と思いながらもしかたない。さらに、自分の身体と向き合いながら生きて行くだけ。なんとか、第一次目標の八十才を目指して前進！

終身会員の皆様へ

「平成二十六年 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎二月十四日(土)

懇親会：午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ函館

◎会費 (終身会員) 六千五百円

◎申し込み締め切り

一月十四日(水)

◎申し込み方法

同封の葉書にてお申し込みください。

あとがき

新会員・終身会員の皆様の特集号、『夕陽渡島』第百二十四号をお届けいたします。御寄稿いただいた皆様には、大変お忙しい中での原稿執筆に心より感謝申し上げます。また、本年度も会員の皆様に多大なる御協力をいただき、予定通り発行できましたことに心よりお礼申し上げます。